



平成24年9月18日

内閣府（防災担当）

中央防災会議「防災対策推進検討会議」（第13回）

議事要旨について

1. 専門調査会の概要

日時：平成24年7月31日（火）17:45～18:15

場所：官邸2階大ホール

出席者：

<中央防災会議会長>

野田内閣総理大臣

<閣僚委員>

藤村内閣官房長官（座長）、中川防災担当大臣、
平野東日本大震災総括担当大臣、大島総務副大臣、西村厚生労働副大臣、
奥田国土交通副大臣、松原国家公安委員会委員長

<学識経験者委員>

阿部、泉田、河田、清原、志方、田中、田村、林、原中、平野、増田、
宗片各委員

<その他>

後藤内閣府副大臣、郡内閣府大臣政務官、下条防衛大臣政務官、
竹歳内閣官房副長官、米村内閣危機管理監 他

2. 議事要旨

(1) 防災対策推進検討会議の最終報告案について

中川防災担当大臣より、最終報告案について説明。出席の委員より、防災対策推進検討会議の最終報告案について、了承を受け、最終報告を決定。

(2) 座長挨拶（内閣官房長官）

本日、最終報告を取りまとめることができた。座長として、委員のご尽力に感謝。

最終報告は、今後の我が国の防災対策の方向性を示した大変意義のあるものと理解している。単なる提言にとどめることなく、今後、法制、組織、予算など、防災対策全般の改善、拡充に反映していくとともに、英語などに翻訳し海外に対しても発信することなどをお願いしたい。

(3) 内閣総理大臣挨拶

中央防災会議の会長として、委員の皆様のご尽力に感謝。

東日本大震災の経験は、将来の世代にしっかり引き継がねばならないと思っている。政府として、多角的な視点から防災対策の充実・強化を一層強力に推進していく。各閣僚においては、この報告の中で提言があった内容を政府の施策として着実に実行できるよう、しっかりとリーダーシップを発揮していただきたい。

(4) 今後の防災対策推進検討会議の進め方について

本検討会議は本日、最終報告をとりまとめたが、会議としては今後も引き続き存置をして、最終報告で提言された事項のフォローアップ、南海トラフ巨大地震対策ワーキンググループや首都直下地震対策ワーキンググループの最終報告に向けた議論の総括などを行いたいと考えているので、よろしくをお願いしたい。

(5) 自由討議等

委員からの主な意見等は次のとおり。

- 報告を各国語に翻訳し、今年秋のIMF・世銀総会で、配付すればよいのではないかと。
- 今回、防災・減災の学習を報告に記載いただいたが、学習の出口としての地域活動とともに、希薄化するコミュニティ再生の大きなステップにもなり得る。そのための官民協働のさまざまな事業の具体的な積み重ねを是非期待したい。

- 東日本大震災以降、自治体間、あるいは団体NPO、企業、大学などの応援と受援の仕組みの重要性がクローズアップされている。復興のためにも、その仕組みの充実を急ぐべき。
- 政府と自治体の連携強化について、いざというときに対応できる体制の構築のため、引き続き政府のリーダーシップをお願いしたい。
- 複合災害について、是非中央防災会議全体で議論する機会を持ってもらいたい。
- 首都直下型地震における安全な避難の方策といったことについて、今後検討願いたい。
- 現場で協力する実働部隊は、システム化を進め、将来的には、米国の危機管理庁（FEMA）のようなものを作って、その中に、NISC、サイバーテロ対策なども集約して、日本全体の危機管理能力を有するものとするべき。
- 防災教育は非常に重要。太平洋津波警報センターはユネスコがバックアップしており、所管は文部科学省なので、今後、この会議の委員に是非文部科学大臣を加えて欲しい。
- 本報告を踏まえ、今後、是非立法府との整合ある対応をお願いしたい。前回報告した首都直下のワーキンググループの中間報告において、仮に東京圏外に出ていかなければならないときに、5都市を挙げ、そこでバックアップ機能を維持することとしたが、そこが立法府とずれると参議院の緊急集会等も実効性のある体制ができない。立法府については政務三役から御尽力をお願いしたい。
- この報告は、ある意味で、阪神・淡路大震災以来東日本大震災に至るまでの、様々な防災についての経験・知恵を、成文化して整理をしたもの。これから20年、30年、当面の日本の防災を考えるときの基本的な枠組みとなればよいと思っている。
- 今後は、是非今まで省庁の壁を超えて、強くしなやかな社会をつくるという共通の目標のために、さらに尽力いただき、科学技術をフルに活用したような合理的で論理的な攻め口で防災をやっていただきたい。
- 防災対策は、国のあらゆるレベルの方に理解していただけるように説明し、国民全体に染み渡らないと実現しない。教育で、と報告書の中には書いてあるが、いかにこれを浸透させていくかということについては、今後も是非議論を続けていきたい。
- 今後は民間人が防災に関わるということをもっと誇りに持てるように盛り上げていきたいと思うし、そのためにも政府の方でさらなる牽引をしてい

ただきたい。

- 大変幅広い内容で、そして被災者にとっても希望につながる内容の報告ができたと思っている。この報告が1日も早く実践をされ、そして徹底されるようによろしく願いたい。
- 民間の持っている力を活かし易い環境づくりを、今後、検討してもらいたい。オペレーションが本当にうまくいくのか、私どもは広域拠点病院を持っている組織として非常に不安に思うところも多々ある、そういう細かいところだけではないが、うまく民間の力をも巻き込める環境をつくっていただきたい。
- 「国難」ともいふべき大規模災害を意識し、現在、南海トラフ沿いの巨大地震のモデル構築及び被害想定算出に向けて努力を続けているところ。8月末に予想される大きな被害想定と今回の防災対策の改善案をジョイントして、日本として次世代の防災に役立つような取組がなされることを期待している。
- 貴重な御提言をいただいたことに感謝。それらをしっかり反映して、この報告を確実に現実のものにして参りたい。

以 上